

主体的・対話的で深い学びの授業実践 リフレクションシート (科目「マーケティング」)

授業実践の直前と直後において、生徒を3名程度し、課題に対する思考や様子を比較し分析することで、生徒の変容を記述する。また、授業改善や授業デザインの方策を提案する視点に立って、授業構想の振り返りを行う。そして、新学習指導要領における育成を目指す資質・能力の評価方法の課題を述べる。

抽出生徒の思考の変容		
生徒	課題提示直後の課題に対する思考や様子	授業実践終了時の課題に対する思考や様子
A	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、答えだけを出し、深く考えようとしなかった。教科書の用語など、暗記する問題は得意であり、授業に対しては前向きに取り組む。人前での発言は苦手であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して深く考え、分析を行い、発言することができるようになった。 グループでの発言も多くなり、自信をもってまとめることができるようになった。
B	<ul style="list-style-type: none"> 用語を暗記することは特であるが、グループでの発言が苦手であり、自分から深く考えて発言することは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 分析を安易に考えていたが、企業の工夫や考え方に興味をもつようになった。 実社会での商品管理の工夫について、興味をもつようになった。
C	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングの教科に全般的に興味をもてず、計算などを不得意とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品回転率について、計算方法を学び、必要性を理解した。商品管理について、興味をもつようになった。

授業構想のリフレクション	
課題の提示	<p>本時の目標である「在庫管理の重要性」は理解させることができた。商品回転率による標準在庫高算出、在庫比率による標準在庫高算出の方法も理解させることができた。実在の企業の粗利益、粗利益率、商品回転率の計算方法は、興味をもって取り組んでいた。商品回転率を上げるためには、どうすればよいかについてもよく議論し考えていた。交差比率による商品及び店舗の分析についても、それぞれの意見を議論しながら考えていた。そして、企業人講話は、実際の商品も提示してもらい、大変興味をもって考えていた。しかし、提示した課題が若干難しかったためか、取組に差がついてしまった。</p>
思考のための資料と想定される生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> 商品回転率、在庫比率による標準在庫高算出では、楽しそうに計算し、意見を出していた。 商品回転率だけでは、企業分析して判断することができないことは理解できていた。 商品回転率を上げるために、在庫管理を適切に行う必要があることに気が付いていた。 粗利益率を加えた交差比率を利用することで、企業分析の判断材料の一部となることを感じていた。
対話と思考（対話を通じた課題解決のプロセス）	<ul style="list-style-type: none"> 4人のグループ討論では、自分の意見を活発的に発言できない生徒もいた。 もう少し易しい内容の質問を増やすべきであった。また、生徒に考えさせる時間をもう少し確保する必要があった。 全体に対して、議論した内容をまとめ、説明できるようになった生徒もいた。
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> 商品回転率、適正な標準在庫数を求める方法を理解し、活用できるようになった。 在庫管理の方法を理解し、重要性についても認識することができた。

新学習指導要領における育成を目指す資質・能力を評価するための課題	
①知識及び技術	<ul style="list-style-type: none"> 商品管理の方法、商品回転率の計算方法を理解できているかの確認は、計算例を見ながら計算しているため、本当に身に付いたかは不明な部分があった。
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思考を分かりやすく伝えることができたようになった生徒もいた。 自分の考えを論理的にまとめることができる生徒もいたが、結論しか発言できない生徒もおり、今後に課題が残った。
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、自分の意見を積極的に発言し、グループの意見をまとめることができていた。意欲的に取り組む姿勢が見られた。